

今、何の病気が流行しているか！

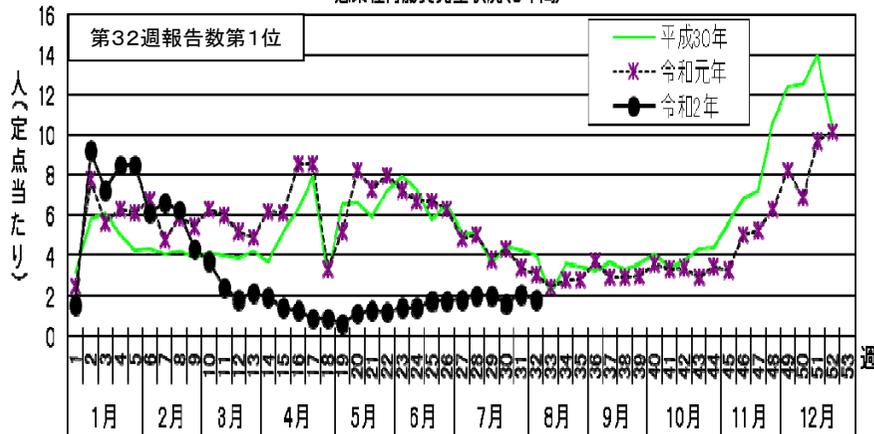
【感染症発生動向調査事業から】

令和2年8月3日（月）～令和2年8月9日（日）〔令和2年第32週〕の感染症発生状況

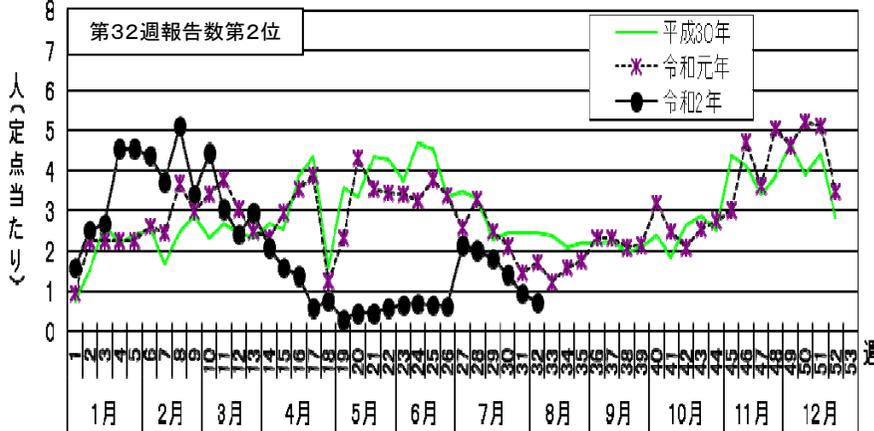
第32週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 突発性発しんでした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.79人と前週（2.05人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.73人と前週（0.97人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
 突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.58人と前週（0.73人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



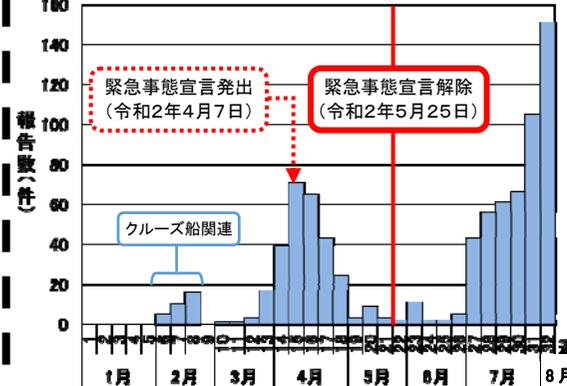
新型コロナウイルス感染症～高齢者を感染から守りましょう！～

新型コロナウイルス感染症の報告数は、令和2年4月7日に緊急事態宣言が発出された後、一旦減少しましたが、令和2年5月25日の解除後は再び増加がみられます。

川崎市においても、緊急事態宣言解除前は279件でしたが、解除後は504件と増加しており、特に20～30歳代が311件と全体の61.7%を占めていました。60歳以上は52件と解除前の77件より少ないですが、徐々に増えているため、今後さらに増加する可能性もあります。

重症化を防ぐためには、高齢者や基礎疾患のある方への感染を防ぐことが重要です。

川崎市における新型コロナウイルス感染症の診断週別発生状況



川崎市における新型コロナウイルス感染症の年齢階級別報告数

